

第1学年2組 社会科学学習指導案

1 単元 「古代までの日本」

2 指導観

- 本単元は、学習指導要領【歴史的分野】の内容「(1) 古代までの日本」における「(イ) 日本列島における国家形成」に当たり、「日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていたことを理解すること」の教材として取り扱うものである。

この時期の日本は、大陸から日本に渡来してきた人々が稲作を伝えたことで、日本に本格的な農耕が広まった。この稲作の広がりによって、それまでの「狩猟・採集」、「移動しながらの生活」が大きく変化し、そして現在の日本の主食ともなっているほどに日本に稲作が根付いた時代である。稲作の伝来により、人々はそれまでの移動しながらの生活から一か所に定住するようになり、稲作の際の作業も分担して行われた。また、生産余剰物が稲作に適した土地、水をめぐっての争いも起こるようになった。その争いに勝った集団は、征服した諸集団を配下に置き、小国家を形成した。それらの小国家のうち、台頭した邪馬台国はその後の国家統一の原形となった。このように、現在の日本の食にも影響を与えた稲作を学習し、稲作の普及により人々の生活を大きく変えたことを学習することは、これからの時代を学習していく中でも大変意義深い。

- 本学級の生徒（男子16名 女子19名 計35名）は、全体的に真面目な授業態度で取り組んでおり、授業では発言もあるが、発言する生徒が一部に偏っているのが現状である。事前に行ったアンケート調査では、「歴史の学習に意欲を持って参加することができますか。」の質問に対して「参加することができる」「どちらかといえば参加することができます」と答えた生徒が20名、「参加できていない」「どちらかと言えば参加できていない」と答えた生徒が15名であった。また、「縄文時代はどのような時代でしたか。」の質問に対しては、「狩りをして食べ物をえる生活」など狩猟・採集の生活をしていたことを答えた生徒が28名であった。さらに、「弥生時代はどのような時代でしたか。」の質問に対しては、「稲作が始まった」「卑弥呼がいた時代」など稲作の普及や支配者の存在を答えた生徒は26名であった。これらのことから本学級の生徒は、稲作の普及が「ムラ」や「クニ」の形成につながったことや、増加した人口を養う為に水利や余剰生産物をめぐる争いにつながったことは理解していないと考える。
- 本単元の指導にあたっては、日本列島での農耕の広まり、東アジア文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解することができるようになることをねらいとする。
 - ・単元の導入段階では、人類が誕生し、どのようにして道具や暮らしを発展させたのかを調べる活動を通して、農耕・牧畜によって社会が変化し、文明が起こったことに気づかせるために、人類の進化の過程や生活の様子を資料から読み取る活動を設定する。
 - ・単元の展開段階では、四大文明が、農耕・牧畜が発展しやすい大河の流域で起こったことを理解することができるようにするために、古代文明がどのような場所で起こったかを資料から考える活動を設定する。また、古代文明に共通する特徴についても考察する。
 - ・単元の終末段階では、日本列島での農耕の広まり、東アジア文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解することができるようにするために、大陸からの稲作の普及により、人々の生活が大きく変化し「ムラ」や「クニ」ができた理由を、クラゲチャートを使って考える活動を設定する。

3 単元の目標

- 世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されたことを理解することができる。
(知識・技能)
- 人類の進化の過程で農耕や牧畜が根付き発展したように、古代の日本でも稲作の普及により人々の生活が発展し、国家の発展にもつながっていることをレポートなどで表現することができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 古代の歴史的事象に関心を持ち、主体的に調べ、課題を解決しようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

4 単元指導計画（全16時間）

知識及び技能…〔知〕 思考力、判断力、表現力等…〔思〕 学びに向かう力、人間性等…〔学〕

次	時	学習活動・学習内容	ねらいと具体的な支援	評価の観点（方法）
一	1	1 小学校で学習した歴史の流れをおおまかに振り返る。 ・人物や出来事、文化遺産等について考える。また、時代区分についても様々な表し方があることについても知る。	これから学習する古代とはどのような時代なのか、関心を持つことができるようにする。 ・小学校の学習内容を振り返るために、年表やイラストを用いて歴史上の人物や出来事、文化遺産等について考えさせる。	・小学校で学習した歴史の流れを振り返り、古代の学習に関心を持つことができる。 〔学〕：(学習プリント)
二	14	2 世界の古代文明や宗教が起こった場所や環境の特徴をまとめる。 ・人類の進化について調べる。 ・古代文明は生活技術の発達、文字の使用や国家のおこりと発展などの共通する特徴があることをまとめる。	日本で国家が形成され、大陸の制度を取り入れることで古代国家の仕組みが整い天皇や貴族の政治が展開したことを理解できるようにする。 ・古代文明の共通点に気づくことができるように、地図から読み取る活動を設定する。	・古代文明の特色が、生活技術の発達、文字の使用、国家の起こりと発展などで共通点があることに気づくことができる。 〔思〕：(学習プリント)
本 時 6 ／ 14		3 農耕の広まりが生活や社会に与えた影響を考える。 ・狩猟・採集の生活が農耕の広まりによって変化していったことに気づき、人々の生活はどのように変化したかをまとめる。	・農耕の広まりにより、人々の生活がどのように変化したかを気づくことができるように、狩猟・採集の時代と比較させる。 ・課題解決の見通しを立てるために、思考ツールを活用した活動を設定する。	・稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由を説明することができる。 〔思〕：(学習プリント)
		4 東アジアとの接触や交流と政治の変化について調べる。 ・東アジアの統一国家や聖徳太子と飛鳥文化など、東アジアの政治制度の変化を調べまとめる。 ・大化の改新や壬申の乱を経て、律令国家の仕組みが整ったことを、当時の唐や朝鮮半島の情勢から必要であったことに気づく。	・東アジアの当時の情勢を把握できるように、地図を活用し読み取らせる。 ・仏教が広まりや、遣唐使などによって唐の文化や政治制度が日本に伝わり政治や文化に影響を与えたことを理解できるように、実際に唐の影響を受けたものを提示する。	・日本の政治制度は、東アジアの影響を受けていることや、天皇や貴族が政治の中心であったことを理解している。 〔知〕：(学習プリント)
三	1	5 これまで学習したことを踏まえて、「古代とはどのような時代なのか」をまとめる。 ・古代での学習をまとめ、「古代とはどのような時代なのか」を考える。	これまでの学習を通して、「古代とはどのような時代なのか」をまとめることができる。 ・「古代とはどのような時代なのか」かをまとめられるように、古代のキャッチフレーズを作らせる。	・「古代とはどのような時代なのか」をプリントにまとめることができる。 〔思〕：学習プリント

5 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 1年2組教室において

(1) 本時の指導観

前時までに、生徒は現在に残る遺跡の資料や土器等のレプリカを見たり、読み取ったりする活動を通して、縄文時代の人々の生活について理解している。そこで、本時は、稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由を説明することができるようにしたい。そのために、導入場面では、縄文時代と弥生時代の2つの矢じりを提示し、なぜ矢じりの大きさが違うのかを考えさせて本時の活動への課題意識を持たせる。そして、クラゲチャートを活用して稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由を多面的・多角的な視点から整理させる。さらに、まとめの場面では、稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由をまとめ、振り返りを行う。

(2) 本時の主眼

- ・稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由をまとめることができる。

(3) 準備

- ・学習プリント ・振り返りシート

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点 (方法)
つかむ	<p>1 本時のねらいや方向性を確認する。</p> <p>ここに2つの矢じりがあります。2つの矢じりは縄文時代と弥生時代のもので、なぜ、矢じりの大きさが違うのかな？</p> <p>めあて 「ムラ」や「クニ」ができた理由について考えよう。</p>	<p>○ 本時の学習につなげるために前時までの学習の振り返りを行う。</p> <p>○ 本時活動への関心を高めるために、大きさの異なる2つの矢じりを提示する。</p>	
さぐる	<p>2 稲作の普及によって人々の生活がどのように変化したのかについて調べる。</p> <p>(1)稲作が普及した人々の生活を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧→米、動物、魚、貝、山菜 ・道具→弥生土器、くわ、石包丁 ・住居→環濠集落 	<p>○ 稲作が普及した弥生時代の人々の生活をイメージするために、食べ物や道具や当時の生活の様子をイメージした絵など様々な資料を提示する。</p>	
深める	<p>3 稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由を考える。</p> <p>(1)個人でクラゲチャートを記入する。</p> <p>(2)個人のクラゲチャートを班で交流する。</p> <p>(3)班のクラゲチャートを全体で交流する。</p>	<p>○ 稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由を考えやすくするために、クラゲチャートに記入させる。</p> <p>○ 班や全体で交流するとき、円滑に交流が進むように、交流の仕方を提示する。</p>	
見つめ直す	<p>4 本時のまとめと振り返りを行う。</p> <p>(1) 本時のまとめを行う。</p> <p>稲作は多くの人手を必要としたため、定住化が進み「ムラ」を形成した。また、増えた人口を養うために水利や良質な土地、余剰生産物等をめぐり「ムラ」同士の争いが起こり、次第に「クニ」へと成長した。</p> <p>(2) 『思考力・表現力 up のためのスキル表』を活用し、学習の過程でわかったことやわからなかったことを書き、発表する。</p>	<p>自己内対話で目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物がある場所に移動しながらの生活と比べると、同じ場所に住むようになった。(比較) ・縄文時代では木の実や貝などを食べていたが、弥生時代では米を食べるようになり生活が豊かになった。(比較) <p>○ 自己内対話を促し、考えを広げるために、振り返りシートを記入させ発表させる。</p>	<p>・稲作の普及により「ムラ」や「クニ」ができた理由を説明することができる。</p> <p>[思]：(学習プリント)</p>